



無料体験レッスン受付中
ECCジュニア [掲載]

東日本大震災の被災地を支援しよう。現地向かう関西のボランティアの活動が活発化している。19日23日には大阪からの初の本格的なボランティアバスによるメンバー約40人が宮城県石巻市に赴き、現地で活動。参加者の約8割は初心者だったが、「支援が足りないことを実感した。また来な
くちやいけないと思った」との声も上がっている。
(河居貴司)

関西ボランティア 被災地を目指す

ボランティアバスの運行は、大阪府、大阪市、堺市の社会福祉協議会が企画。19日夜に出発し、参加者は20日22日の3日間活動した。年齢は20歳69歳と幅広く、先着順の申し込みは、開始1時間半で締め切りとなる人気ぶり。現地で5人1組で、津波で浸水した家の泥をかき出したり、不要なものを廃棄したりする作業などに携わった。

初めて本格的なボランティアに参加したという大阪市城東区の看護師、阿部由美さん(35)は「今、行かないと後悔する」と応募。担当した家屋は1階が浸水し、家族は2階で生活しており、泥まみれの部屋の中で、なくなった位牌を捜した。

何とか位牌は見つかり、家族からは感謝されたが、阿部さんは活動を通じて無力感も感じたという。

死者・行方不明者が計5千人を超える石巻市は被害の爪痕が深く、懸命に作業しても、状況はなかなか改善され

今、行かないと

ない。「私は何千分の一も役に立ってないのではないかと
いう思いもあった。当たり前の毎日がいかに大切かということをも身をもって知った」と話す。

また、大阪府北区のフリーター、河崎友紀さん(35)も、どろどろになりながら家屋の掃除をしたが、部屋をきれいにするところまではできなかった。河崎さんは「1回だけじゃなく、息の長い支援が必要なんだと思った。もう一度来たい」と語る。

ただ、ボランティアメンバ

の思いは被災者にしっかりと伝わっているようだ。

石巻市吉野町の寺院、多福院は津波で江戸時代の山門が流されるなどの被害を受け、今も倒れた墓石の上に流された車が折り重なったままの状態。メンバーは、墓石の間に流れ着いた流木などを取り除く作業を黙々とこなした。

三輪宗俊副住職(33)は「一人で掃除をしていると、自身心もつらい。ボランティアのみなさんが加わってくれて本当にありがたかった」と話した。



大阪から駆けつけたボランティア参加者の活動。墓石の間に流れ着いた流木などの清掃に当たった宮城県石巻市の多福院 (三尾郁恵撮影)

経験者と行動／被災者目線で

大型連休を控え、ボランティアの増加が見込まれるが、被災地では「ボランティアセンターの受け入れ態勢が十分でない場所もあり、混乱が心配」という不安も上がる。

被災地ボランティアの参加者は、何を心がけるべきか。大阪市社会福祉協議会の松尾浩樹さんは「まずは情報収集が大切。また、ボランティア初心者ばかりで行動するのではなく、できるだけ経験者と行動することも必要です」と話す。

参加者の心構えは…

大阪発の今回のボランティアバス運行に当たっては、参加者への事前説明会も開かれた。「がれきにしか見えない倒壊家屋も、家主には思い出の詰まったわが家。被災された方の目線で考えることが大事」などと心構えが伝えられた。

参加者の一人は「待つのもボランティア」という言葉が印象に残った。はやる気持ちをクールダウンできた」と振り返る。「意気込んで現地に入っても、支援先が決まらず、待機時間が長くなることもあると知った。次の指示を待つボランティアがいることも大切」と話した。

大阪発のボランティアバスは、第2陣が25日、第3陣は5月10日に出発する予定。第2陣の申し込みはすでに締め切られたが、第3陣は26日午前9時から、堺市社会福祉協議会(☎072・232・5420)で受け付ける。参加費は、現地2泊の宿泊代や保険料などを含め1万円。

映画「八日目の蟬」出演

子供の笑顔には、力があ
る。「子供が笑うだけで、周
囲もみな笑う。暗い雰囲気も
一気に明るくなる。すごいパ
ワーです。」「そう、ううん

性、希和子。素と名付けて4
年間逃亡しながら、慈しみ育
てる。「壮絶な人生。でも、
一般的な人がたまたま背負っ
てくる。」「私共を包み、
後休眼中だった。難しい役柄
をもちえと喜びと司持し、
ところに入れてきたね。確か
に私ならやるわね、と一笑

母となった人生は、
では全く違つとい
の時間は確実に減る、

「カイロ」
アのバッシ

88シリ

再開
J 後、
戸部
立語
が宿

希望の笛
開の
ム々
陸下
が宿

春の読者

全国各地から、
爽やかな春をお
届けします。